

コンビさんとの懇談トピックス [案]

コンビさんを中心とする環境学者の発言の影響は大きく、また在来エネルギーの需給状況の激動もあって、非科学的な原子力批判はやや弱まってきています。…〔口述〕…私は55年前日本で原子力開発への着手を、「被爆国の日本こそ正しい原子力平和利用を進める権利と義務がある」という考えで、これを推進してきた人間として、現在の状況に大きな責任を感じている。コンビさんも、原子力の利点について辛抱強く社会に説明してこられた経験から、原子力の「意義」とか現状について、別の視点からの感想とか或いは「責任」を感じておられるのではないかと存じます。

そこで今日は、原子力の人類史上の意味、ならびに、原子力開発の現状が「地球環境への役割」などの期待にふさわしいほどの成熟しているのか、といった基本問題について、ご意見を伺い、議論してみたいと存じます。お許し頂けるなら、私から順次問題を提起いたしましょうか。

①まず原子力は、ガリレオ・ガリレイの「地動説」以上に革新的な、人間認識を根底から一変する「原子核科学」に立脚するものである。つまり、原子力エネルギーは、単に石炭・石油・ガス或いは自然エネルギーに続く、一つのエネルギーではない。それ故、原子力の研究・開発・利用を始める時には、「地動説」が出現したとき以上に、人間精神のルネッサンス（浄化）が不可欠であったはず。しかし、原子核科学が登場した時代は、植民地争奪競争と二次世界大戦の末期であり（いわば人間精神の荒廃期）、世界観や基本哲学についての「内省」も無いまま、原子力時代は始まったのです。その結果、軍事利用（核兵器）の方も、他国支配や覇権の具となり、その国際管理も道遠しである。

②一方、平和利用は、従来産業の枠組みの中で開発を進めつつも、色々な若干の新概念（第三者損害賠償や大事故に対する事前準備、安全性・廃棄物処分での国際規約、開発と規制とを分離した国の規制など）を工夫・導入して遂行してきた。その結果スリーマイル・チェルノブイリの二大事故はあったものの、軽水炉を中心に世界の全電力の六分の一が原子力という状況になっている。

しかしながら、今のままで、原子力発電に急激なドライブがかかるようなことになれば、深刻な事態も憂慮される。

（以上の考え方に概ね賛成ならば、憂慮点を例示して、意見交換。）

例示：放射線影響（「科学者」の説明や社会的判断）、燃料サイクルの不確定さ、関連の研究開発の広範・超長期性、国際秩序の不安定との整合の困難、

③さて、従来の化石文明では環境汚染の進行度の物差しとして「エンロロピー」が使われてきたが、原子力時代の物差しを考え出す必要があるのではないか。私は「原子力ではエントロピーの増大はない」などと講演したこともあるが・・・。(一案は・・・)

④原子力に批判的態度をとる事が「知識人」の流行スタイルとなっている理由はなにか。選挙の票がとれる、「かっこいい」からでしょうか、それは何故。

⑤前項にも関連するが、原子力部落の人が、右派ないし保守派の台頭を熱望しているのは、私はいつも不思議に感じてきた。その理由を深く考えて行くと、原子力の抱える問題点や、原子力という巨象を、従来の産業的・国家的インスチツーションに閉じ込めながらやって来た「無理」が浮き彫りにされているように思います。(真の「人民管理」??・・・)

[以上]